

音楽アーティスト科Ⅱ部 ヴォーカルコース 受講科目一覧 2年次

文化・教養専門課程（文化・教養分野）

1 単位時間 45分

授業科目		年間授業 時間数	週授業 時間数	単位数
講義	一般教養Ⅱ	74	2	4
講義	歌唱/演奏基礎技術Ⅱ	74	2	2
実習	歌唱 演奏応用技術Ⅱ	74	2	2
実習	サウンドアナライズⅡ	74	2	2
実習	アンサンブル実習Ⅱ	148	4	8
実習	作品制作	148	4	8
合計		518	14	26

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ヴォーカルディレクションⅡ		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	一般教養Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科Ⅱ部 ヴォーカル				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 <input type="checkbox"/>	非該当 <input checked="" type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴					
授業概要					
主にパフォーマンスアートの歴史(音楽史、演劇史、芸能史、身体表現の歴史)を通してこれらの体系を理解することでアーティストとしての自らの在り方を探ると同時に、哲学などを学びながらそれらのエッセンスを加味することによりそれぞれの美学に立脚した活動を促す。					
到達目標					
オリジナルパフォーマンス、オリジナルアンサンブル、セッションワークなどの様々なパフォーマンスアートの理論を通してそれらコンテンツの基本構造を理解し、実際の表現学習の類型を体系的に捉えることにより知識量を飛躍的に向上させます。 またプロフェッショナルへの入り口として技や演出力のレベルを上げ、実際のショービジネスの世界で通用しうるかのシビアな目線によって、より高度な表現方法への造詣を深め、且つ表現者としてそれらを体得していく。					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	エンタテインメント作品とは歴史や人間性など人生哲学がダイレクトに投影されるという視点から様々な先人の類型を紐解きながらアーティストとしての生き様を討議などを交えて考え出していく。
【前期】 5～8回目	音楽の起源から中世・ルネッサンス、バロック、典派、ロマン、近代・現代の音楽と作曲家、また現代ポピュラーミュージックへ多大な影響を与えたアメリカンルーツミュージックの体系・系譜を学びそれらが現代音楽へ与える影響を推察する。
【前期】 9～12回目	日本の音楽史の中でポイントとなる雅楽、声明、琵琶楽、能、文楽、歌舞伎、地歌、箏曲、尺八などの演奏、発声、ステージシステムなどを体系的に理解しそれらが現代音楽へ与える影響を推察する。
【前期】 13～16回目	身体表現の歴史では舞踏やダンスは様々なスタイルの累積により進化し、過去から現代へと融合し、新たなムーブメントが生み出される。そのルーツやスタイルの系譜を見ながらそれぞれの表現の成り立ちを推察する。
【前期】 17～19回目	演劇の起源、古代ギリシア、宗教との関わり、シェイクスピアなどの劇作家の登場、貴族、大衆文化による発展など西洋演劇史と日本の古代から中世にかけての伎楽、猿楽、田楽、能、狂言など、また近世の歌舞伎、人形浄瑠璃などの在り方を学ぶ。 ■前期試験:筆記試験にて、前期で学習した内容の理解度を確認する。
【後期】 20～23回目	近世の歌舞伎役者から戦前戦後のテレビ、漫才、落語、コント、ドラマ、時代劇、マジック、ラジオなど大衆文化の担い手となったコンテンツが何故、人気を博したかの推察を行う。また、芸能事務所、エージェントなどの担った役割も解説する。
【後期】 24～27回目	デジタル技術やインターネットの普及によって、パフォーマンス側が自らのイベント情報を発信し、直接オーディエンスやユーザーと繋がり、ダイレクトにビジネスを行なうことが可能な時代において自らが自分という商品のブランドを高め、且つビジネスの知識、業界の仕組みを知らないとセルフプロデュースを試みられないことから現代におけるプロデュース論を学習する。
【後期】 28～31回目	コンサートの企画・立案から運営まで、またステージにおける音響、照明、テック、ローディー、舞台監督など技術系スタッフの動きや役割などの全般理解を行い、多角的な視点でイベント運営を見つめられるようにする。
【後期】 32～35回目	民族交流や伝播による世界各地の思想・宗教・文学・歴史・民俗・美術・音楽などの発生を知ると同時に、新たな地域文化が生まれる際のメカニズムなどを推察していく。
【後期】 36～37回目	ビジネススキルとして対人関係、主にコミュニケーション、会話、交渉、プレゼンスキル、コーチングなど、また自己管理としてスケジュール、目標、タスク管理術を理解させ、一社会人として業界で活躍できるようにこれらの有効性を学習させる。 ■後期試験:筆記試験にて、後期で学習した内容の理解度を確認する。
評価方法	前期試験、後期試験ともに筆記試験を実施し、S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価を行う。
学生へのメッセージ	一般教養は、社会人としての必須条件であり、特に就職希望者にとっては大変重要な知識となります。アーティストとして活動する為のノウハウ、音楽業界で活躍する為に必要な知識を習得し、自身の音楽活動に活かしてください。また、音楽業界に求められる人材として自己をアピールできるように、様々な教養を身につけていくことを目的としています。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ヴォーカルテクニックⅡ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏基礎技術Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科Ⅱ部 ヴォーカル				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	『Make Me』でデビュー。2枚目となるシングル『Precious Story/タカラモノ』をリリースし、発売後、ユニバーサルホームのテレビCMにも起用された。CDリリースは約束の場所へ / UNION・ボクたちのホームラン / 福岡ソフトバンクホークス オリジナル演出曲集など。ラジオパーソナリティー・LOVE FM(過去担当番組:「So High!」「Music Primary」「Life Time Melody」)も行う。				
授業概要					
1年時に身につけた発声のメカニズム、歌唱に必要なテクニックを実際のボーカリストたちがどのように使用し歌唱に繋げているかを解析し、生徒自身の表現に活かす。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・1年時に身につけた発声スキルを表現力としてパフォーマンスに活かす。 ・1年時に身につけたスキルを持って、生徒自身の持つイメージによる表現力を歌声として歌唱に表出させること。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	基礎発声練習(1年時の復習も兼ねてチェスト・ヘッド・ミドル)
【前期】 5～8回目	基礎発声練習(声区融合・子音)
【前期】 9～12回目	洋楽シンガーボイスアナライズ1(有名シンガーを題材にどのような音色で歌っているかを分析)
【前期】 13～16回目	邦楽シンガーボイスアナライズ1(有名シンガーを題材にどのような音色で歌っているかを分析)
【前期】 17～19回目	好きなアーティストのボイスアナライズ1(有名シンガーを題材にどのような音色で歌っているかを分析) ■前期試験:課題曲の歌唱により「歌唱への理解度 / ボイステクニック / 基礎発声力の向上」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	洋楽シンガーボイスアナライズ2(有名シンガーを題材にどのような音色で歌っているかを分析)
【後期】 24～27回目	邦楽シンガーボイスアナライズ2(有名シンガーを題材にどのような音色で歌っているかを分析)
【後期】 28～31回目	好きなアーティストのボイスアナライズ2(有名シンガーを題材にどのような音色で歌っているかを分析)
【後期】 32～35回目	ボイステクニック1(ビブラート・フェイク)
【後期】 36～37回目	ボイステクニック2(アドリブ・スキット・インプロビゼーション) ■後期試験:課題曲の歌唱により「歌唱への理解度 / ボイステクニック / 基礎発声力の向上」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「歌唱への理解 / ボイステクニック / 基礎発声力の向上」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	1年時に学んだ音楽のプロとして必要な思考をさらに発展させ、より高度な表現方法を自然なパフォーマンスとして使用できるように定着させていきましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ヴォイストレーニングⅡ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏応用技術Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科Ⅱ部 ヴォーカル				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	<p>・セイカ食品 シロクマ、ヴァーナル化粧品、アサカワ引越しセンター等のテレビCMコール</p> <p>・シンガーソングライターとして、精力的にライブ活動を行い、CDもリリースしている。</p> <p>上記の経歴を活かし、職業として求められる「歌唱技術等」の指導を行う。</p>				
授業概要					
歌唱の基礎、呼吸や姿勢、発声の際に使う体の使い方を学び、ピッチ、音価の正確性を高める。また、手拍子や体を使いリズム感をしっかりと養い、歌唱の際に表現に集中できるようにする。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸法の基礎を習得。 ・発声の際の姿勢を習得。 ・骨盤底筋、インナーマッスルを強化し、発声の安定性を獲得する。 ・力を入れずに発声できるようになり、自然な姿勢でリズムに乗れるようになる。 ・歌の中で使える滑舌を習得し、言葉が伝わる歌唱ができるようになる。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	各々の発声の状態、問題を確認。トレーニングメニュー説明&実践。ロングトーンやスケールを使い基本的な発声練習。
【前期】 5～8回目	呼吸法トレーニング。骨盤底筋を使った発声練習。表情筋トレーニング。チェストボイスを中心に、トレーニング。
【前期】 9～12回目	呼吸法トレーニング。骨盤底筋を使った発声練習。ヘッドボイスを中心にトレーニング。
【前期】 13～16回目	呼吸法トレーニング。骨盤底筋を使った発声練習。声区融合トレーニング
【前期】 17～19回目	前期テスト対策。前期テスト:発声に関する用語、仕組み、発声、リズムの到達度の確認。
【後期】 20～23回目	吸法トレーニング。骨盤底筋を使った発声練習。子音トレーニング。メロノームを使い任意の曲をアカペラで歌唱。調声、リズムトレーニング。
【後期】 24～27回目	吸法トレーニング。骨盤底筋を使った発声練習。子音トレーニング。表情筋トレーニング。
【後期】 28～31回目	これまでの発声練習を応用し、総合発声トレーニング。アカペラ歌唱。
【後期】 32～35回目	これまでの発声練習を応用し、総合発声トレーニング。アカペラ歌唱。
【後期】 36～37回目	通年のまとめ。前期テスト:発声に関する用語、仕組み、発声、リズムの到達度の確認。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「発声に関する用語、仕組み/発声/リズム」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	発声は筋トレです。フィジカルをしっかりと鍛え、自分の内なる声を引き出し、ステージで何の不自も無く歌えるようになりましょう。う
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	歌唱実習Ⅱ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	サウンドアナライズⅡ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科Ⅱ部 ヴォーカル				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	<ul style="list-style-type: none"> ・セイカ食品 シロクマ、ヴァーナル化粧品、アサカワ引越センター等のテレビCMコール ・シンガーソングライターとして、精力的にライブ活動を行い、CDもリリースしている。 上記の経歴を活かし、職業として求められる「歌唱技術等」の指導を行う。				
授業概要					
自ら選んだ楽曲を歌いこみながらテクニックをきめ細やかに、また感情表現をより深めながらシンガーとしての自らをワークショップスタイルの中で確立していきます。生徒それぞれにまだ獲得できていない表現方法を課題曲として与え、獲得に導く。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・与えられた課題曲に対し、生徒自身がその楽曲に合う表現方法を考慮しパフォーマンスすることができるようになる。 ・既存曲のカバーをする際も、オリジナル曲を自身でパフォーマンスする際も、オーディエンスに届く歌唱、音色(声色)選びができるような思考を定着させる。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	課題曲1(日本語の楽曲で自由選択)
【前期】 5～8回目	課題曲2(日本語の楽曲、それぞれに必要なテクニックのある楽曲を講師より)
【前期】 9～12回目	課題曲3(英語の楽曲で自由選択)
【前期】 13～16回目	課題曲4(英語の楽曲、それぞれに必要なテクニックのある楽曲を講師より)
【前期】 17～19回目	表現・パフォーマンス(課題曲1～4の中で1曲をライブシミュレートパフォーマンス) ■前期試験:課題曲の歌唱により「歌唱時の音色(声色)の使い方 / 歌詞への理解度 / 総合表現力」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	レパートリー1(自身の財産となるようなレパートリー楽曲の追求)
【後期】 24～27回目	レパートリー2(自身の財産となるようなレパートリー楽曲の追求)
【後期】 28～31回目	レパートリー3(自身の財産となるようなレパートリー楽曲の追求)
【後期】 32～35回目	レパートリー4(自身の財産となるようなレパートリー楽曲の追求)
【後期】 36～37回目	模擬ライブパフォーマンス(課題曲1～4&レパートリー1～4の中から数曲を選択し一定時間、MCも含め20分ほどのライブパフォーマンスを構築する) ■後期試験:課題曲の歌唱により「歌唱時の音色(声色)の使い方 / 歌詞への理解度 / 総合表現力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「歌唱時の音色(声色)の使い方 / 歌詞への理解度 / 総合表現力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	表現の幅、歌唱における様々なテクニックなど、さらにより高度なものへと押し上げ、自分自身がどのように表現したいのかをオーディエンスに確実に伝えることができるように磨き上げていきましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ライブスタイル実習/ライブパフォーマンス実習Ⅱ		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	アンサンブル応用Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	74回(148単位時間)	年間単位数	8単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科Ⅱ部 ヴォーカル				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	<ul style="list-style-type: none"> ・Back Number、中村 正人(DREAMS COME TRUE)等、メジャーアーティストのコンサート時のバックアップミュージシャン ・自身もシンガーソングライターとして九州各地でライブ活動を行う。 上記の経歴を活かし、職業として求められる「演奏技術等」の指導を行う。				
授業概要					
課題曲に内包されているテクニック、リズム、ハーモニーなどの類例を自らの経験値として取り込みながらバンドアンサンブルについて理解を深める。 3週で楽曲が変更。ライブイベントへ向けてのリハーサルも兼ね、パフォーマンス力、ステージング力の向上をもはかっていく。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・広い声域を使い、ヴォーカリストとしてレベルアップを目指す。 ・自分の表現の幅を広げて、アンサンブル基礎Ⅱに基づき、ライブステージを楽しむ。 ・1年次より細かいリズムや音程もしっかりとって歌う。 ・曲を理解しエンターテインメントを習得する。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	課題曲①アップテンポ女性曲、POPSリズムに乗りペース配分を考えてメリハリをつける。
【前期】 5～8回目	課題曲②アップテンポ男性曲ROCK、滑舌よくリズムにのり叫ぶところは叫ぶ、ワイドな歌唱。
【前期】 9～12回目	課題曲③ミドルテンポ女性洋楽、英詞のもつリズムをアナライズしてアクセント、響きを学ぶ。
【前期】 13～16回目	課題曲④ミドルテンポ男性洋楽、英詞のもつリズムをアナライズしてアクセント、響きを学ぶ。
【前期】 17～19回目	課題曲①～④の中からLIVE実習にむけて選曲し、リハを重ねる。 ■前期試験：課題曲の歌唱により「歌唱力 / ステージングエンターテインメント力」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	課題曲⑤ミドルバラッド女性Vocal曲、ビブラートなどのバラッド技術を学ぶ。
【後期】 24～27回目	課題曲⑥ミドルバラッド男性Vocal曲、ビブラートなどのバラッド技術を学ぶ。
【後期】 28～31回目	課題曲⑦6/8などのバラッド曲、難しいリズム、3連を感じて歌う。
【後期】 32～35回目	課題曲⑧7/8や5/8が入る曲、キメなどをしっかりおとさずに巧みにのって歌う。
【後期】 36～37回目	課題曲⑤～⑧の中からLIVE実習にむけて選曲し、リハを重ねて発表。 ■後期試験：課題曲の歌唱により「歌唱力 / ステージングエンターテインメント力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「歌唱力 / ステージングエンターテインメント力」の2項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	エンターテイナーなヴォーカリストを目指して技術を高めていく授業です。ステージで魅力を出すためにがんばりましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	スタジオワークⅡ		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	作品制作	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	74回(148単位時間)	年間単位数	8単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科Ⅱ部 ヴォーカル				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	メタルバンド「ANOTHER STREAM」(アナザーストリーム)にてインディーズデビュー。国内外から様々な評価を得つつ2012年に脱退。 2013年よりレコーディングエンジニア・アレンジャーとしてのキャリアを開始し、メジャーアーティストを始め様々なアーティストのレコーディング、編曲などに参加。 上記の経歴を活かし、職業として求められる「音楽理論、調音力等」の指導を行う。				
授業概要					
基礎課程で積み上げてきた知識、技能の総体としてクリエイティブな応用実践で音楽やパフォーマンス作品を作り上げていきます。また、グループプロジェクトとして企画、打合せ、譜面制作、リハーサル、レコーディング、ステージ本番に至るスケジュールリングを行い、構成員の考えや芸術観などお互いにコネクしながらより良い制作の方法を考えることにも重点を置きます。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・エンターテインメントの基本構造の理解、表現学習、作品制作、ステージ発表などを習得のサイクルとし、徐々に表現レベルを上げていきます。 ・メンバー全員でひとつのプロジェクトを作ることを経験し、今後の活動に生かすことが出来るようにし、且つクオリティーの高い楽曲制作と演奏が出来るようにシミュレーションを重ねます。 ・自身のポテンシャルを高めて、将来的な可能性の幅を広げることが可能になります。 ・チームワーク、協調性を養います。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～8回目	決められたメンバーと協力し合い、ひとつのプロジェクトを作り、ライブ演奏、レコーディングに向けた企画とスケジュールリングを行う。構成員の発想を集約し方向性の確認も行う。
【前期】 9～16回目	イベントプロジェクトの企画案に従い、オリジナルの抽出、楽曲の選定、またアレンジの振り分けなど個々の特性と将来像に応じて構成員の役割を決定していく。
【前期】 17～24回目	オリジナルナンバーのコンセプトやアレンジを確認しあい、演奏や歌唱を行いながら修正点を抽出していきます。また活発な意見の発議でそれぞれの考えを確認する。
【前期】 25～32回目	楽曲演出や演奏の完成度を上げるためにグループとしての実力を指導すると同時に個々へ与えられた課題を確実にクリアし、プロジェクトに反映させていく。
【前期】 33～38回目	前期の授業で制作してきた作品の総仕上げ～ステージ発表またはレコーディングを行い形に残す。 ■前期試験: 作品の発表により「クオリティー/技術力/表現力/コミュニケーション力」の到達度を確認する。
【後期】 39～46回目	後期はより高度なプロジェクトコンセプトをグループごとに思考し、ライブ演奏、レコーディングに向けた企画とスケジュールリングを行う。構成員の発想を集約し方向性の確認も行う。
【後期】 47～54回目	イベントプロジェクトの企画案に従い、オリジナルの抽出、楽曲の選定、またアレンジの振り分けなど個々の特性と将来像に応じて構成員の役割を決定していく。
【後期】 55～62回目	オリジナルナンバーのコンセプトやアレンジを確認しあい、演奏や歌唱を行いながら修正点を抽出していきます。また活発な意見の発議でそれぞれの考えを確認する。
【後期】 63～70回目	楽曲演出や演奏の完成度を上げるためにグループとしての実力を指導すると同時に個々へ与えられた課題を確実にクリアし、プロジェクトに反映させていく。
【後期】 71～74回目	後期の授業で制作した作品の総仕上げ～ステージ発表またはレコーディングを行い形に残す。 ■後期試験: 作品の発表により「クオリティー/技術力/表現力/コミュニケーション力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「クオリティー/技術力/表現力/コミュニケーション力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	一作品をグループで作り上げるプロセスの中で生じる葛藤や苦悩という生みの苦しみを経験しながら、作品完成時に感じる達成感や喜びを授業を通してシミュレーションしておきましょう。また基礎課程で培ったパーツを組み合わせる応用課程のクリエイティビティも存分に発揮してください。
備考	